

いしづち

愛媛労災病院広報紙第14巻第2号

（通巻第72号）

2015年4月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進

電子カルテを導入して

副院長 木戸 健 司

当院でも2015年2月1日から電子カルテが稼働を始めました。それまでの経緯を振り返ってみたいと思います。

当院で電カル導入が考えられてから既に5、6年が経過しています。その間病院の経営状態のこともあり、なかなか具体化ができない状態が続いていましたが、宮内院長は「電カルなくして病院の新たな展望なし」との強い決意で機構本部も説き伏せ、13年3月の病院協議で電カル導入が正式に決まりました。

ベンダーが職員の投票により富士通に決まり14年7月31日にkick off、28のWorking Groupの活動が始まりました。WG活動及びWGのリーダー会議であるProject会議ではすべての医師に参加してもらい、各職種の者が意見を述べ合うことによって職種間の理解が深まればと思っていました。又既に決まっていた病院機能評価受審にむけて、診療、看護等の運用を整理し電カル内に落とし込んでいければと考えていました。しかしさすがにこれは欲張りだったようで、現在は2か月後に迫った機能評価受審の準備で大変な状況です。

各WGとも時間外の活動で大変だったと思います。特に佐藤部長、岡本師長を初めとする入院WGの方々、国司部長、泉師長を中心とした外来WGの方々には仕事量も多く大変な負担をおかけしました。又WG間、



部門間の調整は伊藤係長、中津留君、正岡君、そして高橋師長の4人が実質的にすべての切り盛りをしてくれました。

当初順調だった準備も11月中旬にマスター設定が入ってきた頃から遅れが目立つようになってきました。1回目、2回目のリハーサルから本稼働への1ヶ月半は無我夢中、なんとか辿り着けたというところでしょう。

電カルは入りましたがhardだけ新しくなっても意味がありません。現在実際に運用してみると様々な不備な点がでてきていると思います。電カルに「使われず」に「使う」ためには業務とシステムの継続した「チェックと修正」が必要であると思います。

最後に職員の皆様、半年間本当にお疲れ様でした。そして有難うございました。

電子カルテを導入して	1
当院の不妊外来の現状	2
北4病棟紹介	3

【産後祝い膳】のご紹介	3
「あいろう保育園」開園しました	4
新規採用ドクターの紹介	4

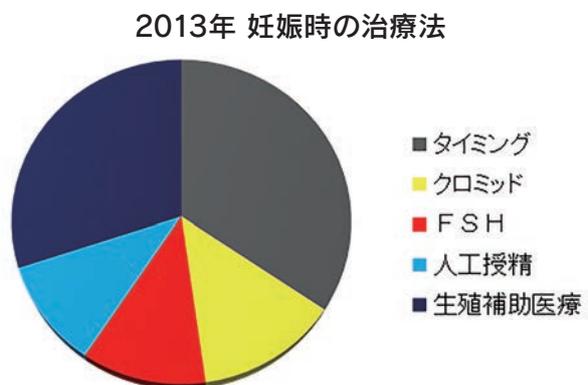
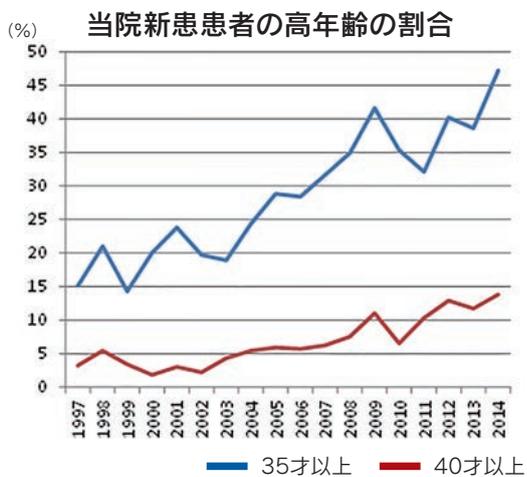
当院の不妊外来の現状

産婦人科部長 南 條 和 也

最近では晩婚化による出産年齢の高齢化などさまざまな原因で不妊症は増加傾向にあるとされております。当科では1989年の産婦人科開設以来、不妊外来を行っております。統計を取り始めた1997年以降、35才以上特に40才以上の割合は明らかに増加しております。そのためか、妊娠率が若干低下しておりますが、新患数にあまり変化はなく、多くの患者様に来ていただいております。

1978年 Edwardsと Steptoeによる体外受精胚移植児が英国で誕生しました。その後体外受精胚移植法は全世界で行なわれるようになりました。さらに、受精障害に対しては、Palermo等によってはじめられた卵細胞質内精子注入法-ICSIによって高い妊娠率が得られるようになってきました。また、受精胚が多数えられた場合は余剰胚について凍結保存ができます。そのような生殖補助医療技術の進歩により、生殖補助医療による出生児数はここ数年劇的に増加し、2012年の統計では総出生児数に対する生殖補助医療による出生児の割合は3.66%、27.3人に1人の割合となっております。当科でも1991年より体外受精胚移植を、2001年より顕微授精ならびに凍結融解胚移植を行っております。2013年には体外受精で19名、顕微授精で12名、凍結融解胚移植で3名妊娠されました。約三分の一が生殖補助医療で妊娠しております。

最近の話題としては遺伝子組み換えF S H製剤の自己注射、体外受精の自然周期あるいは低刺激採卵、胚盤胞のガラス化凍結融解胚移植法、胚連続観察システム（タイムラプスモニタリング）を用いた胚培養法などがあります。当科でも積極的に取り入れて治療にあたっております。これからも一人でも多くの方が赤ちゃんを授かるように、お手伝いしていきたいと考えています。



北4病棟紹介

北4病棟は、産婦人科、整形外科、内科、小児科（新生児）の混合病棟ですが、院内唯一の女性病棟です。妊産褥婦、新生児、周手術期（産婦人科、整形外科）、化学療法、終末期看護、糖尿病教育入院など患者の年齢や治療目的は多岐にわたります。また、患者の入退院が多く院内1の病床回転率を誇っています。

スタッフは助産師11名、看護師14名が、Aチーム（産科、新生児）：助産師チームとBチーム（婦人科、内科、整形外科）：看護師のチームの2つのチームに分かれてそれぞれの専門性を発揮しています。

Aチームは、助産外来や母乳相談などお母さんの身近な存在としてがんばっています。また、年間4校の母性看護学実習を受け入れ、後輩育成のために看護教育にも熱心に取り組んでおり卒業後、当院に入職する人も増えています。

Bチームでは、がん化学療法認定看護師を中心に、患者様が安全・安楽に化学療法を受けられるよう学習を深め、看護実践に繋げたり、がん患者・家族の気持ちに寄り添い在宅で緩和ケアができるよう、地域連携に努めています。また、整形外科の術前術後



からリハビリまで、その人の生活を考えながら社会復帰に向けて、看護の力を発揮しています。

しかし当病棟の最大の特徴は、何と言っても2チームが職種を超えてチームワークの良さを発揮していることです。これからも、患者様にとって居心地がよいと感じてもらえる、ほっこりあたたかい病棟を目指してがんばります。

【産後祝い膳】のご紹介

栄養管理部

当院の産科病棟では、ご出産された方へのお祝いの一環と致しまして、【産後祝い膳】をお出しする機会を設けております。

主食はライスorパン、メインは肉料理or魚料理から選択。その他に前菜・スープ・デザートを召し上がっていただくフルコース風の内容であり、フランス料理店やホテル等にて修業を積んだ経験のある調理師たちが、腕によりをかけてご用意しております。

また、東予地方では産後の母体を考慮し食す風習のある【チヌ（黒鯛）】を材料とした1品を、食べやすくアレンジしてお出ししており、皆様方には大変ご好評をいただいております。

産後のお母様のご健康とお子様の健やかなご成長を祈念し、栄養管理部一同、心をこめてお作りしております。

ささやかではございますが、出産後の大切な思い出の1つとして、楽しい時間をお過ごしいただければ幸いです。



季節に応じた食材を使用しメニューはその都度変更。デザートはケーキまで当院手作りの1品です。

「あいろう保育園」開園しました

総務課 高橋 友佳里

3月より院内保育所「あいろう保育園」が開園し、職員家族を対象とした保育サービスを開始しました。

子育てと仕事の両立は子育て世代の職員にとって大きな課題です。育児における負担の大きさから早期の職場復帰が叶わない、あるいは復帰そのものを諦めなくてはならないと悩む職員もいます。職員の退職は大きな損失であり、病院にも両立のための積極的な支援策が求められます。そしてこの度、職員の院内保育施設を望む声をきっかけとして、院内保育所の開設が実現。3月3日には開園式を挙行し、テープカットで念願の開園を祝しました。

保育サービスの提供は、県内外で病院内保育所開設の実績を持つ株式会社アイグランへの委託のもと



行っています。今後のサービス拡充も検討されており、職員がより安心して働ける職場づくりのなかで、保育所は重要な役割を持つ存在となるものと思われま



新規採用ドクターの紹介



福井 啓二

診療科：脳神経外科
 経験年数：33年
 専門医等免許：日本脳神経外科学会専門医、
 日本脳卒中学会専門医、
 労災補償指導医、日本静脈経腸学会認定医



村上 智俊

診療科：整形外科
 経験年数：8年
 専門分野：整形外科
 趣味：サッカー
 コメント：この度、4月から愛媛労災病院に勤務させていただくこととなりました。皆さまが安心して受診できる診療に努め、地域医療に貢献できるように頑張っていります。よろしくごお願い申し上げます。



小林 成紀

診療科：外科
 経験年数：11年
 専門分野：呼吸器外科、消化器外科
 趣味：ピアノ・バドミントン

広報誌編集メンバー 委員長:池田外科部長 委員:木戸副院長、山田医局長、日野看護師長、土肥看護師長補佐、大成薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、豊島臨床検査技師、滝川管理栄養士、山下総務課長、稲富庶務係長、富永医事課員、竹熊庶務係員